

会議録

1 附属機関の名称

犬山市文化財保存活用地域計画策定委員会

2 開催日時

令和3年11月5日（金） 午後1時30分から午後3時10分まで

3 開催場所

犬山市役所2階 205会議室

4 出席した者の氏名

(1) 委員

赤塚次郎、笈真理子、鬼頭秀明、佐藤正知、村上恵美子、四辻秀紀、奥村好樹、中田哲夫、望月友恵、丸山和成

(2) 執行機関

中村教育部長

（歴史まちづくり課）中村課長、加藤課長補佐、渡邊統括主査、中村主査補

5 報告事項・協議事項

報告事項：令和3年度事業の進捗状況について

協議事項：(1)犬山市の歴史文化の特徴について

(2)新規調査対象物件について

(3)文化財の保存・活用に関する課題について

6 傍聴人の数

0人

7 内容

(1) 報告事項

①令和3年度事業の進捗状況について

事務局より、資料に基づき令和3年度事業の進捗状況について説明した。

【委員からの意見と事務局の回答】

委員： 結構重要なアンケートなので、どう解釈してこれを活かすかというのが大切だと思う。

（2）協議事項

①犬山市の歴史文化の特徴について

事務局より、資料に基づき犬山市の歴史文化の特徴と関連文化財群のイメージについて説明し、委員の意見を求めた。

【委員からの意見と事務局の回答】

委員： 特徴の中に「明治末期から観光客を対象とした」とあるが、本当か。川など流通の関係で、人の流れがあったと聞いていたので。本当に観光、遊興のようなものがあったのか。

事務局： こちらについては、市史の記述に基づいて書いている。

委員： 全体的に見て、楽田地区のものが少ないと思われる。犬山というと歴史的に、尾張の二の宮の大縣神社をもう少しクローズアップした方が、もっと犬山の存在価値が内外に発信できるのではないかと思う。色々な古代遺跡も多いが、もう少し整理した方があの辺りの古代文化との関連が出てくる。その辺りも含めると、内容が濃くなるのではないか。三の宮のうちのひとつなので、もう少し整理して市として発信した方が、犬山の特色が出るのかな、と思う。

事務局： 二の宮があるということ自体が特徴ということで理解した。場所的な観点だけでなく、時代的な観点も含めて大縣神社を中心としていくつかのものを結びつけて、検討させていただく。

委員： お祭りよりも二の宮の位置づけの方が大事だが、あそこのお祭りは中世から続く、だんじり行事が残っているので、あれはあれで、またひとつの売りだと思う。江戸時代以前の伝統を残したお祭りなので、それを今でも残しているというのは大事なこと。

二の宮の大縣神社のだんじり行事は、本当にすごい、県の文化財くらいまでいってもいいような内容を残している。現在盛んになっている山車祭りというのは、江戸時代後期になってからのものがほとんどである。江戸時代は尾張藩の中では山車祭りを認められなかったからだが、なぜか尾張藩の中で、成瀬家の支配下のところでは江戸時代の早い時期から山車祭りがおこなわれているというのが、ひとつの尾張の祭りの特色でもある。

委員： 大縣神社に先週行ってきたが、あそこは採石場があって、トラックがものすごい。道を歩いているのも怖いくらい。文化財をどうやって守っていくかといったときに、もう少し迂回する方法がないのかとか。あそこの参道を皆さんにもっと来ていただけるような形にできれば思う。

委員： 関連文化財群と歴史文化の特徴を合わせて提示しているが、歴史文化の特徴というところがあって、後半の方で、任意事項として関連文化財群をまとめて保存・活用していくということをそれぞれの自治体に投げかける、というのが計画の作りである。前回問題になったが、最初の方の歴史的環境を記述するところが、まだ十分ではないと思う。犬山の

城下が中心になっていて、周辺の村や地域のことが書かれていない。関連文化財で、例えば祭礼を選ぶと、どうしても他の祭礼とまとめてしまうことになって、相対化されて、特色が見えにくくなると思う。歴史文化の特徴というのは、歴史的環境が大切なので、もっとそこを厚くして、周辺の地域も含めて、近代に至るまで、丁寧に書き込んでいかないと、文化財の多いところに固まってしまう。前回も、周辺部では関連文化財の抽出が難しいということだった。もっと歴史的環境、歴史文化の特徴というところ、二の宮なら二の宮があるというところを、出していかないといけないと思う。

それから、関連文化財の中に、小弓の庄が取り上げられていない。近代の産業や経済といったところも探した方が良い。羽黒の近代は、養蚕と竹産業で農家の人たちが現金を扱い、それが銀行を作った理由だったので、そういうことをもう少し、歴史に即して書いたうえで、やった方が良くと思う。キャッチフレーズみたいなものは任意にやってもらえば良いので。それぞれの文化財には課題があるが、そういうものはこれをやっても出てこない。課題を出すことが一番大事で、その上で関連文化財をやると、その文化財を市民に発信するのに、こうして結び付けた方が分かりやすいし、皆さんにも身近なものになると思う。

委員： あちこちの点を線で結んだり、面として大きく捉えたりするのは、シンプルだと思う。色々文化財が羅列してあるが、文化財を持っている人から見ると、うちが載ってないだとか。だから点ではなく、もう少し分かりやすく、シンプルにできると良いと思う。

委員： 犬山という地名そのものが、実は大縣神社に関係があると聞いたことがある。それには諸説あるとしても、そのことが出発点となるので、もっと大きく取り上げても良いと思う。

アンケートで複数あがっていた、里山とか蛍とか、田んぼの風景など、そういうものが今後、この中に入っていくのか。

事務局： 里山については、歴史文化の特徴5でため池などは挙げているが、景観全体が入るかという点、そこまでは至っていない。

委員： 犬山らしいと地元の人が誇っているものが、この中に全部ではなくても組み込まれていると、地元の人としては「おお、自分のところは大したものなんだ」と思えるのではないか。

委員： 歴史文化の特徴4の流通・交通のところ、木津用水における、舟を使った石の運搬をもっとアピールした方が良く思う。これはかつての尾張藩の真ん中に行く、大動脈である。木曾川の石が名古屋城下に運ばれて、堀川に移されるが、そういった川沿いのところでも一目置いていた産業だと思う。犬山の歴史文化を考える上で、物流としての木津用水というのは、すごく大きいと思うので。地域の核となるものとして、犬山市をもっとアピールできる素材だと思う。

委員： この計画は構成上、歴史文化の特徴の前段階として、地形や地質など

といったことを、市の概要として取り上げられると思う。アンケートにもある里山の景観、自然景観やチャートといった自然遺産が、歴史文化に影響を与えている面が非常に大きい。木曽川が流れていて、丘陵地があつて、濃尾平野があるというのは非常に重要な視点だと思うので、犬山の地質が歴史文化に与えた影響、そういった視点を、それぞれの章に書き加えると良いと思う。市民の方にも分かりやすく、山とか里とか、そういった書き方をしていただいた方が、犬山の地形を背景にした歴史文化の特徴をつなぐことができるのではないかと。古墳もお城もチャートに関わってきているので、時代とかそういったつながりというのを、上手く出していただくと良いと思う。前段だけでなく、文化の特徴の中で組み込んでいただいた方が良いのでは。

事務局： 木曽川は非常に大事だと考えている。犬山の今の成り立ちは、木曽川が流れているからだと思うので、今回、木曽川というキーワードでまとめることも考えた。しかし、木曽川はほとんどのものに影響しており、大きくなり過ぎてしまうので、細かくしている。

委員長： どこの地区も同じようなフレーズが出てくる。なかなか難しいと思うが、地域ごとの特色も上手く合わせ持った方が良いと思う。

委員： 木曽川が一番大事だと思うので、大前提にして、その中でいくつかの要素を線をつないで、まとめていく。これはこれで置いておいて、木曽川の景観や産業、そういった括りで中分類をしていった方が、よりスムーズに犬山の文化財を浮き上がらせることができるのではないかと。思う。

もうひとつ、関連文化財群イメージ(3)犬山の城下町と(9)にも、如庵が入っている。その他にも如庵がらみでいくと、今ヤマザキマザック持っている暫遊荘、あれはもともと名古屋の高松家に益田鈍翁が関東大震災で名古屋に逃げてきて、そこでずっとお茶をこの地域に広めたという大事なところなので、それを含めて、「お茶文化」というような括りで、つなげられるところはいくつかやれば良いと思います。名鉄が持っている正伝院もここに上がっていないが、文化財としては大事なものだと思うので。地元にあったものではありませんが、明治のものを含めて、そういったものもどこかに入れておいた方が良いと思う。

委員長： 歴史文化の特徴の数は決まっているのか。

事務局： 決まりはない。ただ、他のところを見ていると、大体5つくらいにまとめているようだ。あまり少なくまとめると、月並みなものになっていくと思う。

委員： 昭和29年に町と村が合併したが、どうしても地域の区分けができていない。犬山城がもちろん中心になってくるが、城東には城東の、色々な文化財群がある。地域ごとに歴史文化の特徴があつて、それらは木曽川から、地形的に全部つながっているものである。最初に地域の特色があつて文化財群、その後、古代からの歴史に結びつくような流れにして

いかないと、地域の特色が出てこないのではないかと。

委員： 歴史文化を文化財群で括って表にしたのは、大変見やすく良いと思う。この表を元に、史跡をつなぐようなイベントができないかと思っている。家族が楽しく遊びながら、身近に歴史や文化を、知らず知らずのうちにつかんでいけるような、ウォークラリー的なイベントが、将来できたらいいと思う。関連町内会が協力参加して、参加者に色々お話ししたり、高校、大学、中学校の子どもたちがそこでボランティアで動いたりするなど、そんなまちづくりと関連づけたようなイベントを創出していくと良いと思う。犬山城、犬山祭以外の周辺地域の歴史文化をつなぐような、点から線、線から面への活動ができるといいと思う。既にニワ里ネットさんは、子どもたちのために大変分かりやすい、色々なイベントや教室をやっているのので、そういうのもヒントにしながら、つなげていけると良い。

②新規調査対象物件について

事務局より、資料に基づき文化財把握調査の新規調査対象物件について説明し、委員の意見を求めた。

【委員からの意見と事務局の回答】

委員長： アンケートの中で特に、これというものはあったか。

事務局： 犬山地区の名鉄東犬山駅跡などがある。小牧線の追分駅のところは調査してあったと思うが、これはまだ調査していなかったと思う。

委員： 事務局としては、どこが足りていないというのはあるのか。

事務局： 以前の悉皆調査だと、石造物が少ない。

委員： アンケートにあった追分駅舎跡とか、廃棄鉄道の車庫というのは、土地だけなのか。

委員： 土地だけしか残っていない。

委員： 既に市史に掲載してある資料でも、どこにあるか分からないものは結構あると思う。最近知った例では、小学校や中学校に所管されている資料は、具体的な活用に結び付く資料だと思うが、それがきちんと把握されているかという、されていないし、活用もできていない状況にあると思う。子どもへの教育の場で活用することまで考えると、文化財の種類別ということではなくて、どういうところで所管しているかというのは、重要な視点だと思う。その中で学校、教育機関、研究機関が持っている資料というのは、活用しやすい文化財になってくると思うので。

委員： 中学校は多分色々な資料を持っていると思う。地域の皆さんから、置いておこう、預けておこうということで、100年以上続いている歴史ある学校も多いと思うので、調べていくとあるかも知れない。

委員： 犬山中学校にはすごいものがあるが、捨てることもできないし、置き場に困っているという現実がある。もう少し教育委員会同士で、色々な人の意見を聞いて、変えたら良いのに、と思うことが多々ある。課題の

ところで当然、人材についても出てくると思うので、そういったことも連携していただくと、より良いと思う。

委員： 学校の文化財は一時期注目された時期があるので、何か企画展をやったりすることも必要ではないか。

委員： 入鹿池史には、工事の時の賃金木札や人足などの資料が載っているが、今でもあるのか。

委員： 賃金木札は、池野小学校にある。

委員： そういうものが、散逸しないようにした方が良い。保存、活用の課題として、学校や個人などの所蔵資料も調査の柱を立てて、向こう何年の取組みにするとか。今回、あまりやりすぎてもいけない。

委員長： 無理しないで、持続的にやれる事業にしないと意味がない。

委員： 最終的にそういうものを保管する箱を考えていただきたい。無駄なハコモノではなく、お宝を次へつなぐ施設として長期計画の中に入れていただけると、文化財保存と歴史資料保存にもつながると思う。そういう古いものの保管場所が、犬山祭でも緊急課題として修理委員会の中でも出ているので、これは強くお願いしたい。

委員長： 今日いただいたご意見をもとに、事務局と相談して、今年度のことを決めさせていただき、進めさせていただくということで、私の方にご一任いただきたい。

③文化財の保存・活用に関する課題について

事務局より、資料に基づき文化財の保存・活用に関する課題について説明し、委員の意見を求めた。

委員： アンケートに、文化財の保存・活用に関する取組の中で、協力できるものは何ですか、というのがありますが、50%の方が、「イベントやお祭りに参加します」とか、「インターネットやFacebookで情報発信します」、とか、「ボランティアのスタッフ」ということがあがっていた。また、団体の方のアンケートでは、どういったものを求めますか、という間に、あらゆるところで「高齢化」と、「行政」、「行政」、「行政」。だから、このアンケートで明らかになった色々な課題解決には、やはり行政が、どういう風に動機づけをして、働きかけて、そういう参加しやすい場所や機会を設けるか、というのが、これまで以上に必要になってくると思う。これからはもっと、犬山にある人材を活用する必要がある。例えば学校の生徒に犬山のポスターを作らせるとか。デザインが採用されたとなると、高校生なら就職の時に有利にもなるし、両方にとってメリットがある。犬山には色々な有名な方、人材がいらっしゃると思うので、そういう人をもっと上手にプロデュースして、動機付けするのが行政の課題だと思う。

文化財の保存・活用というのは、文化財行政を担う職員の継続性というのが、とても重要になってくる。行政の継続はとても大事なので、人

と金。人材育成するというのは、行政も育成してほしいし、活用する動機づけをぜひ行政がやっていただきたい。

委員： 市民アンケートを見ていると、歴史的資産と観光資源と身近なものがごちゃごちゃになって、すごく幅広い、身近にある文化財が出てきていると思った。歴史文化の特徴を7つに分けているが、市民が身近な文化財だと思っている全てのものをこの計画で拾っていくのは、とても無理だと思う。犬山に住んでみえる方は、犬山の中で別に観光するつもりはないが、観光客をお迎えしたときに、これが他所の人にとって、観光資源だろうな、ということで書いているんだと思う。そうすると、犬山の人が他所へ行くときに、お城を見るときか、古いまち並みというのは、観光資源として見る人が多いんだけど、自分のまちではそういう見方はしていないんじゃないかな、という風に解釈をした。

今、観光分野では観光戦略という計画を作ってる。その計画の役割と、こちらの計画の役割が明確にその辺で別れるところかと思う。市民の方にどうやって、いわゆる文化財に慣れ親しんでもらうかということ、十何年前の犬山市の全市博物館構想の基本的な考え方だが、市民の人が知って、自分が好きになって、それを発信するという、その辺が一番基本になるのかなと思う。市民に対する育成というのは、そういうことだと解釈している。観光協会が入っているというのは、こういう計画策定の中では非常に画期的なことで、名誉なことだと思っている。

委員： アンケートを見ていると、団体の方は人手が不足している、地域コミュニティなどと協力したい。市民の方は、活動していないとか、参加していない、ということがあるが、市役所にそういうマッチングアプリのような、両方を結びつけるような仕組みがあると良いと思う。複数の団体が同じ地域で活動していると、なかなか難しいこともあるかと思うが、求めているところが一致している部分があるので、それを結びつける仕組みが出来ると良い。

委員： 保存するための施設というのが必要不可欠だと思うので、保存に関する課題としては、やはりそういった施設がない、総合的に調査・研究して、保存していく機関がない、ということがあげられるし、それはそのまま長期計画に入れていく必要があると思うので、この計画の中に位置付けてもらおうと良い。

委員： アンケートに出てくる資金が足りない、というのは、指定物件ではないということではいか。文化財に指定しているのに、お金がちゃんとついていないというのはいけない。指定すべきものを指定していないのもいけないと思う。そういう基本的なことをまず継承すべきである。今回調査・研究を進めていくわけだが、継続的にやっていくような体制が必要。

委員： 先程の意見にあったように、学校に色々なものがあるので、どのようなものがあるか、リストアップ調査してほしい。

様式第2（第5条関係）

委員長： ぜひそれはお願いしたい。